

第11回 陽林会 研修

坂東三十三ヶ所観音巡拝 第3回 平成29年4月11日～13日

文責 岩水龍峰

平成29年4月11日(火)林陽寺駐車場を7時15分に出発、名古屋組は上社駅からの乗車。東海北陸、名神、東名、第二東名、海老名から横浜を經由して東京湾アクアライン経由、千葉県に入り館山自動車道木更津北インターから30番高蔵寺着は4時頃であった。約9時間の乗車。今回は、17名の参加であった。終日雨、アクアラインの海ホテルPAを楽しみにしていたが、風が強く、雨で霞む東京湾であった。今回は、栃木県の日輪寺が標高の関係から、雪の心配があったため逆打ちとなった。



第3回のコースは、次のようであった。

11日 各地出発 30番 高蔵寺、33番 那古寺

(泊) 休暇村 館山 〒294-0305 千葉県館山市見物725

12日 31番 笠森寺、32番 清水寺、円福寺奥の院 満願寺、27番 円福寺

(泊) 成田山門前 旅館 若松本店 〒286-0026 成田市本町355

13日 28番 千葉寺 首都高、東名、各地帰宅

(名古屋上社 16:30頃、林陽寺 18時頃)

28番 龍正院は、時間の都合上、次回の巡拝となった。

今回は、千葉県の観音霊場6ヶ寺と円福寺の奥の院満願寺の7ヶ寺の巡拝と成田山新勝寺の早朝ゴマ供養のお参りであった。特に、円福寺の奥の院満願寺は、昭和51年に開創された巡礼の寺と呼ばれ、数々の巡礼の著者である平幡良雄師が創建した寺である。千年の寺歴を持つ霊場とは対照的なじゅんれいによって開かれた新しい霊場であり、何かと参考になる寺でもある。また、成田山新勝寺の早朝5時30分からのゴマ供養は、なかなか経験することができない貴重な体験であった。部田さんご配慮によりカバン一式をゴマの焔に翳していただき感激いたしました。

再掲ですが、坂東三十三箇所(ぼんどうさんじゅうさんかしょ)とは、神奈川県・埼玉県・東京都・群馬県・栃木県・茨城県・千葉県にかけてある33か所の観音霊場のこと。源頼朝によって発願され、源実朝が西国の霊場を模範として札所を制定したと伝えられている。第一番札所の杉本寺から第三十三番札所である那古寺までを巡拝すると、その道程は約1300キロメートルにもなる大変広範囲に設けられた巡礼地でもあり同時に、岐阜から出かければ行くまでに500キロ近く走ることとなり、四国と同様遠い巡礼地である。

第30番 平野山 高蔵寺 (高蔵観音)	真言宗豊山派	千葉県木更津市
	<p>鎌倉時代から坂東三十番札所として親しまれている。文化財に指定されている本堂は大永6(1528)年の再建。高床式で床の高さは1.8メートル、床を支える柱の数88本の堂々とした造りだ。藤原鎌足生誕にまつわる伝説があり、鎌足はこの観音を深く崇拜し、本堂や阿弥陀堂、三重塔、鐘楼などを建立。縁結び、子授けなどのご利益がある。</p>	
第33番 補陀洛山 那古寺 (那古観音)	真言宗智山派	千葉県館山市
	<p>寺伝によれば、行基が元正天皇の病氣平癒を祈るためこの地を訪れ、千手観世音菩薩を安置して祈願すると、天皇の病氣は平癒し、天皇の勅により建てられたのがこの寺であるという。</p> <p>源頼朝がここのご本尊に帰依し、七堂伽藍を建て、また足利尊氏、里見義実も信仰し、寺勢を誇ったようです。結願所だけに堂内においずる等が納められている</p>	
第31番 大悲山 笠森寺 (笠森観音)	天台宗	千葉県長生郡長南町笠森
	<p>大岩の上にそびえる観音堂は、61本の柱で支えられた四方懸造と呼ばれる構造で、日本で唯一の特異な建築様式であり重要文化財。長元元年(1028年)に後一条天皇の勅願で建立されたと伝えられるがその後焼失し、現在の建物は解体修理の際発見された墨書銘から文禄年間(1592年-1595年)の再建。観音堂の75段の階段を上った回廊からは、美しい房総の山々が眼下に眺められ、その景観は一見に価する。</p>	
第27番 飯沼山 円福寺 (飯沼観音)	真言宗	千葉県銚子市
	<p>本尊の十一面観世音を拾い上げた漁夫・清六と長蔵は後に出家して観清(清六)・音長(長蔵)と称したが、弘仁年間(810~24)に弘法大師が巡錫したとき、連座を作って開眼し、この地の豪族が観世音の慈悲と大師の修法力に心をうたれ財を惜みず提供壮麗な伽藍を建立、大師を開祖と仰いだ、その後、海上氏一族の庇護によって発展し、天正6年(1578)には八間四方の観音堂が建てられた。</p>	

<p>第32番 音羽山 清水寺 (清水観音)</p>	<p>天台宗</p>	<p>千葉県いすみ市</p>
	<p>西国3ヶ所の京都清水寺、兵庫御嶽山清水寺とともに三清水とする。境内には夏でも潤れない霊水「千尋の池」があり、「清水」の由来となっている。伝教大師・最澄は熊野権現の化身に会い、ここが霊場であることを知った。最澄の弟子の慈覚大師は千手観音像（秘仏）を刻み先師の庵に残した。その後坂上田村麻呂が大同2年（807）堂宇を建立した。慈覚大師を開基とする天台宗のお寺である。付近一帯は、県郷土環境保全地域「清水観音の森」に指定されている。房総の良さと厳かな雰囲気漂う古刹である。</p>	
<p>第29番 海上山 千葉寺 (ちばでら)</p>	<p>真言宗豊山派</p>	<p>千葉県千葉市</p>
	<p>開基が行基菩薩のお寺である。聖武天皇の御世に観音堂が建てられた。奈良時代には大伽藍を有したらしい。豪族・千葉氏の勅願所として、源頼朝の平家打倒の祈願所としての役割があった。豊臣方に加担した千葉氏は滅亡したが、徳川氏の庇護の下に江戸時代にも栄えた。幾度かの火災、戦災に会う。境内は、桜や銀杏の大木があり、小学生が校外研修に訪れていた。</p>	
<p>第27番奥の院 満願寺 (犬吠埼観音)</p>	<p>真言宗</p>	<p>千葉県銚子市</p>
 <p>ネットより↑ ↓ 巡礼回廊</p>	<p>北総第一の高さの愛宕山東側の中腹に、昭和51年に開創されたじゅんれいのてら・満願寺。この寺は第27番圓福寺本尊十一面観世音の写しの尊像を奉安し、坂東札所めぐりの巡礼が中心になり、満願成就した報恩感謝のために開創された寺である。中門を入ると西国、坂東、秩父、四国、諸国霊場の五ヶ所の仏足跡お砂場があり、身体健全、病氣平癒の祈願をこめてお砂踏みできる。西国、坂東、秩父、四国の百八十八霊場巡拝を満願成就した人々が、その報謝のために各霊場のご本尊を勧請し、左右に24間の満願回廊堂に奉安している。まさに、巡礼の総結願所である。住職は、各地の巡礼の案内書の著者 平幡良雄師 である。</p>	

成田山新勝寺（真言宗智山派の大本山）にもお詣りしました。

「成田のお不動さま」の愛称で親しまれている成田山新勝寺は、千年以上の歴史をもつ全国有数の霊場で、正月3が日には約300万人、年間約1千万人以上の参拝客が訪れます。

成田山開山の祖 寛朝大僧正は、延喜16年（918年）に生まれ、天慶3年（940年）平将門の乱を鎮めるため朱雀天皇の勅命により関東に下り、この地に成田山を開山されました。皇室との血縁もある大変に格の高い僧侶で、後に真言宗初めての大僧正に任じられる。成田山の他にも京都の遍照寺の開山。

御護摩祈禱参詣

成田山での御護摩祈禱は、真言宗の開祖 弘法大師空海が中国に渡り、日本に伝えた真



言密教の修行である御護摩修行の修法を守って行われています。開山以来1日も欠かさずに続けられていて、大陸仏教の教えを学ぼうと貪欲に修行に励んだ当時の僧侶たちの営みを目の当たりにすることができます。

御護摩祈禱 外部の喧騒から隔絶された静まり返った大本堂の中に、雅楽の調べが流れます。突然、静寂を破って直径2m、胴の長さ2.7m、重さ2tの大太鼓が打ち鳴らされます。天井から荘厳な天蓋が吊り下がり、堂内が厳粛な雰囲気の中、護摩壇では御護摩の炎が揺らめき、煩惱を表す護摩木という特別な薪をたいて、職衆の唱える心地よいお経の音が響き渡ります。

御護摩祈禱では、護摩木をお不動様の智慧の炎で焼き尽くすことで私達の心の迷いを断ち切り、願い事を清めて成就するよう祈願されます。厳かに進められる一連の儀式と堂内に漂う空気に触れることで、開山以来千余年の時を超えて続いてきた成田山の歴史と一つにとけ合うことができるように思えます。だからこそ、この御護摩祈禱が成田山参詣のハイライトなのです。成田山ご参詣の折には大本堂内にお上がりになり、是非とも御護摩祈禱参詣をお勧めします。

御護摩炎 お火加持 御護摩祈禱の中では、「お火加持」が行われています。「お火加持」とは、御護摩札や御守のほか、自分の大切な



ものを御護摩の火にあててお不動様のご利益をいただくことをいいます。揺らめく炎はそのものを清浄にするとともに大切にすることを喚起せしめ、更には本来備えている働きを存分に発揮させる御利益があるとされています。（以上の記事、写真はネットより）